



**① 御狩野のゆるぎ石** **地図 3-F**



御射山神社参道の右側にあります。この石は青柳区にあるゆるぎ石と夫婦石と言われます。昔ある村の石工が石材にしようと割ったところ、その石から血が流れて、石工は割るのをやめて家に帰りましたが、その夜から、高熱を出し、苦しむ、間もなく死んでしまいました。それから、村人は割った石の上にゆるぎ石の碑を立て、供養を絶やさなかったということです。

**② 原山様** **地図 2-G**




別名を御射山祭りと言います。御射山神社の例祭です。御射山神社の場所は、穂屋之木大明神から禰宜坂(ねぎざか)を登り、御狩野区を経て、2km(御射山道)行った所でしたが、現在では、諏訪南科金所の東側の森の中であり、お参りしやすくなっています。例祭は8月26日から30日まで行われ、神事は、五穀豊穡祈願の他に、2歳児の健康祈願も行われています。昔は、金沢の学校は半日で終わり、親からわずかな小遣いもらい、駄菓子やおもちゃを買いに行った楽しい祭りでした。社域の御手洗川(うなぎ(今はどじょう))を放流すると、その子は元気で健康に成長するといひ伝えもあります。

**③ 御狩野氏神社** **地図 3-F**




御狩野公民館の西に隣接しています。戦後できた氏神社で、祭神は諏訪大社の諏訪明神です。又、出雲大社も合祀(ごうし)されています。御狩野の小宮御社祭の御神木もこの社域内に建てられていて、区民の憩いの場所にもなっています。

**④ 御射山神戸の一里塚** **地図 5-G**




この塚は、甲州街道の江戸日本橋より四十八番目の塚とされています。御射山神戸の北側に、大きな櫛(けやき)が植えられています(西塚)。この櫛は樹齢380年、幹の太さ(目通り)は6.9m、樹高25m、大人が何人も手をつながないと一回り出来ない程の太さです。甲州街道では往時の状況が現存する貴重な一里塚とされています。対する東塚は、榎(えのき)が植えられていましたが、明治初期に朽ちて、街道を隔てた向かい側に分植され、往時の面影を今日に伝えています。

**⑤ 青柳のゆるぎ石** **地図 5-F**




青柳区から国道を南に500m程行って、セイコーエプソンの寮に上がる道の右脇に大きな石が畑の中に見られます。この石は古くから、御狩野のゆるぎ石と対夫婦石と呼ばれていて、毎日米粒ずつ双方が歩み寄ると言い伝えられています。

**⑥ 出雲神社** **地図 4-E**



国道20号線の西側にあり、青柳公民館の敷地内に鎮座します。青柳駅開通満十五年記念として、大正九年(1920年)五月十四日建立されました。祭神は、出雲大社分霊を祀っています。従って、拝礼は二礼四拍手一礼とされています。青柳地区の氏神様として区民に崇(あが)められています。

**⑦ 穴観音** **地図 4-E**




旧道(甲州街道)の土手に、穴観音と言われている石仏が二体祀られています。近くの大沢地区から青柳地区に通じる小道を穴観音通と呼んでいます。建立年、建立者は不明です。かつて、近くのある家が次々と不幸や災難が相次いだことから、当時の村の行者に拜んでもらったところ、その後病気災難から救われたとの言い伝えがあります。また、安産の石仏としての信仰もあって、安産を願う妊婦のお参りする姿が見られました。

**⑧ 道祖神場** **地図 4-F**




国道から入笠山に向かって進むと、大沢川のふもとに道祖神場があります。ここでは、毎年正月にどんど焼きが行われます。その昔は、道沿いにある道祖神を火の中に入れて焼きましたが、近年は痛みがひどく火の中に入れてなくなり、黒く焼けているのはそのためです。この道祖神が、二百年前のもつとされています。隣に立つ道祖神供養の常夜灯に、「寛政3年(1791年)」の文字が見られます。ご神体の損傷が激しく痛みしい姿を憂い、地区民から双対象の碑が寄進されました。

**⑨ 鬼立木神社** **地図 5-E**




大沢の真ん中、屯所の左の小道を進むと、鬼立木神社につき当たります。ここでは、大沢区の氏神様で、毎年、秋には例祭が行われています。正保4年(1647年)に、天狗山(現在の旭が丘)に住んでいた人々が、大沢川の扇状地に移住しました。その時、集落の中央に農耕の神を祀りました。元宮は、旭が丘の東側の向坂地籍にあり、石の祠が見られます。この社は、この地を開拓した人々が、親村である金沢の青柳神社の神の分霊を祀(まつ)ったと伝えられています。

**⑩ 芥沢遺跡** **地図 5-E**




国道から大沢集落を上り屯所で右に折れると、金沢に向けた丘陵地帯が広がります。この辺り一帯に、縄文人の住んだ芥沢遺跡があります。大沢川と中野沢川の間の平坦な地で、一部発掘調査がされていて、住宅跡や狩猟に使った落とし穴などが確認されています。縄文時代から平安時代にかけて、生活の場であったようです。大沢地区は新田として知られ、金沢の中でも新しいと思われるがちですが、縄文時代から人の住んだ形跡があると知ると、この地の見方も変わってきます。

**⑪ 赤井沢道祖神** **地図 4-E**




ここには、当時、多くの石碑がありました。いつの日か大半が現在の道に壊され今は2箇所4基だけになりました。小正月には、この道祖神にある石を火に入れてどんど焼を行っています。また、赤井沢の地名は、「赤井の水」が湧き出していたことにより、「赤井沢」と名付けられたと言われています。

**⑫ 穂屋之木大明神** **地図 4-E**




諏訪大社の小社御射山神社参詣道の入り口に穂屋之木大明神があり、虚空蔵と蚕玉大神が祀られ、禰宜坂(ねぎざか)の上りに鎮座しています。ここから中央線のガードをくぐり右側の「なべの木平」にさしかかる急坂を神官が登ったことから禰宜坂という名前が残っています。当時は、境内に文化財的な巨木がありましたが、鉄道の複線化によって伐採され面影を失ってしまいました。これを憂い敬神の念が厚い地区民により境内が整備され、幼児の守り神である「鬼子母神」が建立されました。この脇を通る道は、御射山祭が行われる8月には、2歳児の安全祈願の参拜者で賑わっていました。

**⑬ 金毘羅様** **地図 4-D**




江戸時代宿場町であった金沢は、商業活動が盛んであったため信仰も深まり、大沢の西方にある金毘羅山に金毘羅神が祀られました。またこの場所には、奥羽の出羽三山(羽黒山・月山・湯殿山)大権現の碑と秋葉神も建立されています。

**⑭ 蓮華不動尊** **地図 4-D**




昔、諸国を遍歴中の京都の蓮華坊という名高い僧侶が金沢宿に泊まったおり、金鶏金山で働く人夫が昼夜を問わず酷使され毎日2〜3人が亡くなっている話を聞きました。翌朝険しい山道に登り、山の主に無理な労働をさせないように懇願しました。しかし、聞き入れられなかったため、山を下り山に向かって人夫の安全を一心不乱に祈り続けましたが力尽き、立ったままで往生しました。その時から金山の金脈が途絶えたため、ねんごろに僧侶を葬り、そこに蓮華不動尊の碑を建てました。以後この小路を不動小路と呼ぶ様になりました。

**⑮ 泉長寺** **地図 4-D**




江戸時代になって甲州街道が整備されると現在の権現原に青柳宿が作られ、お寺も宿場の東側に青柳寺として建てられました。その後、慶安3年(1650年)に青柳宿が大火に遭(あ)い消失した事で、宿場が現在の金沢宿に移り、お寺も現在の場所に建てられ金鶏山泉長寺となりました。その後も何度も火災に遭いましたが再建が出来たのは、一村一寺の団結力があっての賜物と言われています。この寺の入り口の道路を寺小路と呼び、昭和の中頃までは寺には専用の石畳の大門通りがありました。その後、平成13年に寺全体の建替が行われました。

**⑯ おてつき石** **地図 4-D**




泉長寺入り口右側には、大きく平らな「金沢宿おてつき石」があります。金沢に移住してきた人々が、役人の前で「この金沢宿に居つきますように」との願いを込めて両手をついて祈ったと言われています。当時は、金沢宿の入り口上下2カ所におてつき石が置かれていました。

**⑰ 小松三郎左衛門供養塔** **地図 4-D**



延宝6年(1678年)金沢山の権利争いが千野(宮川)との間に起こり、村民の願いを一身に背負って訴訟の先頭に立った小松三郎左衛門は、不幸にして敗れたため、その責めを受け磔(はりつけ)の刑となり、一族はことごとく追放されるという悲しい事件がありました。山に依存して生きる金沢にとって、200年の長い苦難の時代が続きましたが、明治13年(1880年)、宮城上等裁判所に提訴し、村民の誠意と真実に心を動かされた裁判所によって、念願が勝訴の判決がおりました。泉長寺裏の墓地には、小松三郎左衛門供養塔があり、青柳神社境内には、村民をあげてその遺徳を偲ぶ鎮魂碑と多重供養塔が建てられています。

**⑱ 本陣跡** **地図 4-D**




国道20号線金沢小学校入り口の信号機のある交差点に「金沢宿本陣跡の説明板」と傍らに「明治天皇金沢御行在所跡」の石柱があります。青柳宿と言っていた当時から、本陣・小松家は代々本陣御屋を勤めていました。本陣は、大名や公家が宿泊、休憩する施設で、公用の書状や荷物の継ぎたてをおこなっていました。金沢宿には2軒の間屋が置かれ名字帯刀が許されていました。本陣の敷地は約四反歩(約40アール)あって、敷地内には高島藩や松本藩の米倉などがあり栄えておりました。

**⑲ 青柳神社** **地図 4-D**




鎌倉時代中期、北条泰時時代の奈良県吉野郡丹生川上村の川上神社から大池の中山に青柳宿の産土神として勧請(かんじょう)しました。明治後期になって金沢区から遷座(せんざ)の要望が出され、話し合いの結果、明治40年(1907年)、現在の地に移されました。

**⑳ 舞屋跡** **地図 4-D**




青柳神社の北側に回り舞台を備えた舞屋がありました。当時金沢には、天狗連という素人の芝居グループがあり、昭和20年(1945年)頃まで、祇園祭・秋の収穫祭の日に芝居などが行われ、娯楽の無い村人にとって文化の殿堂でありました。また、建物は説教所として江戸時代末期から明治時代にかけて、道徳などを漢学者等が巡歴して教え導いた場所でもありました。その後、昭和30年代に取り壊しとなりました。

**㉑ 松坂屋** **地図 4-D**




本町の松坂屋は、金沢宿一番の旅籠(はたご)として栄えておりました。当時は博打(ばくち)も盛んに行われ、博打場や遊び道として地下通路もありました。現在の家屋は、明治時代に立て直されたものです。

**㉒ 馬宿** **地図 4-D**




下町の馬宿は明治40年(1907年)まで150年間営んでいました。今でもその面影を残しており、庭先に馬つなぎ石が一基あります。当時は、甲州街道の宿場には25人の人足と25頭の馬を常駐させその任に当たらせていました。

**㉓ 藪倉** **地図 4-D**



金沢地域の製糸業の基を築いた明治26年(1893年)開業の守矢製糸が建てました。藪倉は蚕糸業のための藪の保存庫として活用されていました。製糸業全盛期には、他にも丸糸製糸の5階建の藪倉、丸清製糸の藪倉と3つの藪倉がありましたが、現存するのはここだけです。

**㉔ 小松三郎左衛門棧敷場** **地図 3-D**



小松三郎左衛門処刑の場所から宮川をはさんでの対岸一帯を棧敷場と言います。小松三郎左衛門の処刑に当たり諏訪高島藩の役人の座敷を設けたといわれる場所です。「金鶏駅用向手提灯」に「文政年間(1820年代)本陣白川・樋口等他、はりつけの地に供養の地藏尊を祀る」と記されています。小松三郎左衛門の処刑71年目の寛永2年(1749年)によりやく地藏尊の建立が許されましたが、宮川のたび重なる氾濫(はんらん)で流されたらしく、そこには地藏尊は見あたりませんでした。しかし、処刑場付近には、寛政12年(1800年)下町で如意輪観音が建立されたので、いつしかこの観音様が地藏尊の肩代わりとして、毎年10月25日の命日に供養されています。により様とかみより様と称し拜まれています。

**㉕ 権現様** **地図 3-C**




この権現様の森は市の文化財に指定されており、正面奥の方に金山権現の石祠(いしほこら)が静かにたたずんでいます。この石祠は承応3年(1654年)、青柳宿が移転して3年後に建立されました。この金山権現の祭神は金山彦命で、山の神です。他にもここには、大六天、対馬牛頭天、不動明王、庚申塔、蚕玉大神、摩利支天像碑等、たくさんの石造物が祀られています。

**㉖ 御射宮司・焼け屋敷** **地図 3-C**



金沢宿ができる前に宿場があったところで、青柳宿と呼ばれていました。ここにあった宿場一体が慶安3年(1650年)に火事で焼失したため、金沢に宿場が移されたため、金沢に宿場が移されたため、いっぽう、この地は焼け屋敷と呼ばれ、現在は田になっています。小松三郎左衛門の屋敷はこの辺りにあったと言われています。また、宿の下の入り口に当たる街道はカギの手になっており、そこには新田開発時にお迎えした御射宮司を祀った祠があります。

**㉗ 一里塚と稚児塚** **地図 3-B**




甲州街道江戸から四十九番目の一里塚です。開道時は御射山神戸の四十八里塚と同じ両塚でした。宮川の氾濫、鉄道・国道の拡張等により現在塚はありませんが、一里塚を連想させる稚児塚付近に石柱が建てられています。稚児塚は、昔、高位の役人が東北へ赴任途中、ここで子どもが病気で亡くなり、塚を造って手厚く葬ったそうです。この墓を守る為に2人の家来がこの地に残り、それが金沢市内の有賀と脇坂姓の先祖と言われ、両姓の祝神が祀られています。

**㉘ 産土山青柳神社** **地図 3-C**



大池区の麓にある小高い山が産土山(中山)です。鎌倉時代中期、矢ノ口付近にあった青柳宿(金沢宿)の鎮守社としてここに青柳神社が祀られ、その後、大池新田との共通の鎮守となりました。宿場が現在の金沢区に移った後も金沢宿の鎮守として祀られていましたが、明治40年(1907年)、現在の金沢小学校近くに青柳神社として遷座されました。旧社地には石碑が建てられています。その後は、跡地横に大池区の鎮守社が祀られています。

**㉙ 如意輪観音・コリトリ場** **地図 4-B**



大池区上に、昔の引導場があり、たくさんの石仏と共に如意輪観音が安置されています。霊験あらたかで、歯痛と疫病に効くと言われ、住民の参拝が絶えません。すぐ横を清流の大崩川が流れ、この付近をコリトリ場と言います。御嶽詣の信心深い村人が、お山に登れない時にここで水ごとりとたと言われています。大池区中央には御嶽大権現の立派な石碑もあります。同地に脇坂重右衛門の顕彰碑が建てられています。山論で小松三郎左衛門が主張した金沢山の権利は、明治13年(1880年)によりやく認められました。大池の脇坂氏は、大沢の矢島氏と共に金沢村の代表として宮城上等裁判所で3年をかけた決死の覚悟で真実を訴えて、勝訴を勝ち取った功労者です。

**㉚ 貴船神社** **地図 2-A**



木舟地区は昔から度重なる洪水で、何度も集落を流失しました。その洪水を鎮めるため、鎌倉時代に京都の貴船神社より分社して当地に勧請(かんじょう)されました。祭神は水を司(つかさど)りまた農耕の神様でもある高カカミの神を祀っています。毎年3月には「祈年祭」が行われ、適量の雨を降し、五穀が豊かに実りますようにとの祈願も行います。最近ではこの雨乞信仰が転じて交通安全の役割も担うようになりました。

**㉛ ケカチ** **地図 1-A**



昔いつの時代かリヶ岳山麓大地と西山の出っ張り、ケカチの辺でつながっていて、宮川はシラザレの辺りで深淵となっていました。そのため、洪水で何度も集落を流失し、その水害対応として岩盤の除去や河川工事が行われたとの言い伝えや、豪雨災害のような自然決壊説等があります。毎年3月には「祈年祭」が行われ、適量の雨を降し、五穀が豊かに実りますようにとの祈願も行います。最近ではこの雨乞信仰が転じて交通安全の役割も担うようになりました。

**㉜ シラザレ城跡** **地図 2-A**



シラザレ山は甲州街道を見下ろし、深谷を侵入してくる敵をくいとめるには屈強の要塞でした。室町時代以降甲州武田勢と諏訪勢との間で何度か合戦が行われ、山はその陣地として活用されましたが、城や砦が築かれた形跡はありません。また諏訪が武田氏の支配下になった以降は、狼煙台(のろしだい)として活用されました。

